

17番（小池一哉君）〔登壇〕

19番の山口議員の迫力ある一般質問の後、非常にやりにくかわけですが、なおかつ、暗か話ばかりすんなどおっしゃいましたが、まず農業問題に入りますので、あんまり明るい話もございませんので、御勘弁を願いたいと思います。

まず最初に、6月議会で品目横断的経営安定対策の、11月30日締め切りですのでということで質問をしておりました。現在の進捗状況等を、事務局で結構ですので、お願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

品目横断的経営安定対策の件でございますが、これによりまして、集落営農の組織化を図ってきたわけでございます。武雄市では既存の農家の再編制度化、それと共同乾燥施設を核とした組織化ということで、54の組織の計画をいたしました。そのうち一部、中山間地域を除いた45の組織が設立を済ませております。これは11月末でございます。11月末までに、すべて品目横断的経営安定対策の加入申請を済ませております。

それから、個別の認定農業者でございますけれども、認定農業者の加入状況につきましては、対象11名の中で、秋まき麦の作付者等10名が加入申請済みということになっております。

〔17番「カバー率を教えてください」〕

11月末現在で、そのカバー率でございますが、認定農業者10名、集落営農組織が45団体の計55経営体が加入済みということで、市内の水田等における加入者の面積カバー率は、米で約70%、それから麦、大豆はほぼ100%のカバーということになっております。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

カバー率が麦と大豆で大体100%ということでございます。本当に関係機関なり、並びに団体の皆さんに敬意を表したいと思っております。本当にありがとうございました。

しかし、この問題がやっと動きかけるのはこれからです。今、秋まき麦の真っ最中です。ことしは天候不順で大豆もなかなかさばけんで、まだまだ麦の作付も、まきつけもまだ中途半端な状況ですが、いよいよ正念場でありますので、あの組織、45、集落営農を立ち上げられてスタートしました。一番肝心なのは、この収益の配分方法ですよね。何でも組織がうまくいかん場合は、その金ば分配するときですよ。このときが非常に組織というのが、いろいろ利害関係があつてがたがたありますので、最後までそこら辺の指導までやっていただきたいと思っております。

やっとカバー率100%クリアしたということを知っていましたが、先般来の対オーストラリアとの自由貿易協定ですか、これがいよいよ年明けに本格的な交渉になるということで、恐らく今の水田農業、特に麦ですね。ほとんど壊滅するんじゃないかと言われております。けた違いの面積ですからね、オーストラリア。武雄の水田面積が2,600町と聞いております。オーストラリアの1戸当たりの耕作面積が4,000町歩だそうです。何というですか、昔で言うB29と竹やりの比ぐらいの、まだ開きのあっちゃなかならうかなと思っております。そこと、いよいよこの制度を生かして戦わねばならぬ。裏にはがんこのあったけん、こればあせがあったとかにゃと、こううがった見方もしております。

その麦の代金、今ずっとわかってまいりました。今までは11月に播種をしまして、7月には大体皆さんの懐には入っていたわけです。これが今の制度の中では12月ですよと。そして、なおかつ緑の政策ですね、部長御案内のとおり。これが12月にしか来ませんよと。あと黄色の政策においては、3月か、早くて4月やろうと。そして、残りの販売代金は、売れてももう、これは販売業者、我々の団体であります全農がやっておりますが、これは売れてしまわねば来んですよと。これが大体二、三年かかるとですよ。じゃ、百姓はどがんするという話です。

これば聞いたときびっくりしました。この情報が二、三日前に入ってまいりまして、これは通告しておりませんので、どがんしましょうかと市長に投げかけても、一地方のレベルでどうのこうのとやれることではございませんが、いろんな機会を通じて、大体これも決定だそうです。これは我々の上部団体であります農協を通じて、12月に来る麦の生産費ぐらいは7月ぐらいに前倒しで、貸し付けでも何でもよかけんが、せんばいかんばんということで、今、折衝をしております。それでも、今まで7割ぐらい7月に来ておった金の半分でしょう。ほとんど生産費を引いて、共乾とか、そういう生産費を引くと、もう全然地元には残らんと、手元には残らんとというような状況です。

やっと集落営農で4町規模だとか、20町以上の集落営農をつくりましたとなって、市長、御案内のとおり来てもらいました。うちの集落営農の設立総会に、忙しい中、駆けつけていただきましたが、あのととき126名の参加で200町規模の集落営農をつくったわけですが、もうあれから3名やめられました。農業をやめると。幸い、それは話し合いがっておりますので、隣のおじちゃんとか、地域の人たちがカバーをしていただきましたので、全体の面積要件は変わりませんが、ちょっとこれじゃどがんしゅうなかということで、4カ月のうちに、もう3名が農業を離脱されたというような状況です。

そして、逆に、そういう方たちの田んぼを預かって、今まで3町、4町つくりよった人間が、やっぱり5町、6町、一番太かたで、うちでも今度10町規模の、麦作だけにすれば10町規模ぐらいの農家が出てまいりました。我々も全面的に協力して、加勢に行ったりなんしたりしておりますが、彼が言うには、おじちゃん、これじゃもう来年の集合税でん納め切らん

ばんと。どがんすると。とてもじゃなかばってん、麦代の入ってきて初めて、集合税は6月から始まりますよね、10等分で。そがん集合税でん払い切らんごたあ状況になるよと。太が百姓ほど、これはきつうなるばいというようなことです。

また、牛、畜産農家、あのBSEの風評被害で、本当に壊滅的な打撃を受けた畜産農家がおられました、やっところへ来て設備投資まで金ばちょっと回そうかというぐらいに回復してきました。これは、アメリカのBSEという天佑といいですか、我々にとってはそういう神風も吹いたわけですが、そこへ持ってきてオーストラリアから関税撤廃と、ゼロですよという、今度の年明けてからその交渉に入るということを、やっときょうの新聞で普通紙に載りました。今まではほとんど我々専門ので載っていました。農業というのを市長、日本はもう要らんとですかね。私、きょう、ある新聞の社説ですか、フォーカスを見よったぎ、日本が難儀したときは必ずオーストラリアから食糧ば支援すっけん世話やくなという項目も含んだ交渉が始まるやに聞いております。これは市長の考え方で結構です。本当に、日本にもう農業要らんとかにゃという気持ちにさえなっまってまいります。もう暗い話で済みません。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

日本にとって農業は必要不可欠、絶対に要するというふうに思っております。そういう意味で、今、農水省、あるいは外務省が、私もそれは新聞で、きょう同じのを見ていると思います。けしからん話だと思っております。食糧を、これこそ国民の生命、財産にかかわる根源的なところを、オーストラリアがいつでん助くっけん日本は心配せんでよかて、そればうのみにするとのどけおるでしょうか。けしからん話と思えますね。それを読みよったときに、また頭に血の上ったですね。これはちゃんと言うてやろうと思っております。そがん信頼でくっですかて。私は今の農業交渉はおかしいと思っております。

その上で、じゃ、日本はお先真っ暗かと。武雄はお先真っ暗か、僕はそうじゃないと思っております。というのも、オーストラリアの肉を食べてみました。おいしゅうなか。牛乳も水っぽか。これは、ひとしく皆さんたちも同じだと思います。本来ならば1年かけてつくるとば、1カ月んごとしてつくって、どこがおいしかでしょうか。日光も人工光に切りかえて、地下でつくりよんさあですね、鳥とかお肉はですね、というふうに思っております。

そういう意味で、日本が今までのきっちりした農業を続けていく。例えば、小麦。香川の小麦はおいしかわけですね。これは、日清製粉が特Aでいつも買いよるわけですよ。これは、どがんオーストラリアが頑張っても太刀打ちできんです。あるいは、他県が頑張ってもこれは無理です。これはおいしかです、はっきり言って。その香川の特Aの、これは日清製粉が買い集めよるとばってんが、どこに行きよるかというぎ、香川のうどんの、今、うどんブームの火つけ役なんですね。そいけん、香川のうどんは、あれは小麦がおいしかということと、

技術力とマッチングしておいしかわけですね。だから、そういったところに絶対負けないような小麦をつくらんばいかん。で、小麦は、議員、あれは生鮮食品ですもんね。やっぱりずっと置いとくぎ、酸っぱくなるわけですよ。だから、そういう意味で小麦をすぐ供給できる。だから、地元にもその受け手ばつくらんばいかんと思っています。すぐ出して、すぐ使えらと。そういうことをすれば、私は小麦はまだ大丈夫と思っています。そういう意味で、生産管理はJAとか、小池議員の力強いリーダーシップでまとめていただきたいと思います。これは結構、苦労、苦難はあると思います。何でそこまで言われるとやて。しかし、そいば乗り越えんぎんた、私はブランドにならんと思ひます。小麦は、讃岐のを目指して頑張っていたきたいと思ひます。

それと牛肉です。佐賀牛、びっくりするですね。今、全国的に見たときに、私、出張行ったときに可能な限り百貨店に行くようにしています。東京、大阪、そこで販売のあれば見るわけですね。そいぎ、今、神戸牛の横に佐賀牛の置いてあるですね。新宿の高島屋、あるいは大阪の阪急、ここに置くのがステータスになるわけです、ブランドになるわけです。そういう意味で、佐賀牛は神戸牛と変わらん値段で置いてある。私は、オーストラリアでもアメリカでも勝ちきると思ひます。

それと乳製品です。これは、乳製品は佐賀牛のごと太かロットじゃ無理ですもんね。そいけん、例えば、これは上田牧場の牛乳とか、あるいは浦牧場のヨーグルト製品とか、ある意味、卵と牛乳を加工した上で出していく。それで、付加価値も私はつけんばいかんと思っています。その証拠に、2カ月ぐらい前の日経新聞に載っていました。ランキングで、日曜日にごっといつくですね。あのときに、驚くべきことに僻地ばかりですよ、人気のあるところは。北海道だったり、岩手だったり、そこがもう年収20,000千円から30,000千円稼ぎよんさあわけです。取り寄せてみるぎんた、そがんおいしゅうなかです。武雄でつくっておんさつとがよっぽどおいしかです。しかし、それがもうブランドとなっておるわけですね。今、通信販売で幾らでも買えるわけですね、楽天とかで。だから、そういう意味での乳製品は、そういったところに活路があると思ひます。

最後に砂糖です。砂糖は、皆さん徳島の和三盆で御存じでしょうか。（「知ってますよ」と呼ぶ者あり）ありがとうございます。まだ飛ぶごと売れよるですね。皆さん苦しか、苦しかて言いよんさあです。しかし、年収ば聞いてみたら8,000千円から10,000千円で、どこが苦しかかなと思ひわけですね。しかし、それは、和三盆も物すごく加工代の要るわけですね。だから、それを京都とかに卸しよんさあわけです。京都の和菓子、ほとんど徳島、高知の和三盆なんですね。だから、砂糖もいろいろ加工品質によって、今、沖縄がサトウキビで頑張りよんさあです。だから、そういう意味で、武雄で砂糖が、どこがどうなのかわかりません。だけど、そういうふうに買ってもらえるような加工、そしたら、きのう申し上げたような大豆も一緒です。高く買えるような品質をしてもらって、ブランドをつけるのは、もう私

の仕事だと思っています。そういう意味で、農業経営者の皆さんたちには高く売れるようなものをつくってもらって、それは私がトップセールスでどこでも売りに行きます。そういう意味での、明るく力強い奮起を私はお願いしたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

市長の心強い、力強い後押しで、何とか暗い気持ちも少しは吹っ飛んだところでございますが、先ほどから出ておりますように、町中の商店街がシャッター通りになってしまったと。いつじゃい古川知事の話でも、佐賀の中心街のシャッター通りにいかがわしい店ができたとおっしゃりました。もうジョーク半分、ほんなごと半分と思いますが、理由ば聞くぎ、シャッター通りが一番目立たんと思ったけん、ちょっと笑い話みたいな本当の話だそうです。

これもやっぱり大店舗法の改正で、全部今まで規制があって、皆さんが共栄していた商店街が、一躍、もう全部郊外に走ってしまった結果だと思っております。いっちょん変わらんことが今の農村でも起きているわけです。せっかく骨折って4町、5町になった。さあ、設備投資もそろそろしかけたわというところに、こがんことがあれば、やっぱり今市長がおっしゃるように、確かに我々のところは平たん地でもあったし、ある程度、何というですか、油断というですか、まあ大丈夫くさんという心のおごりというですか、これがあったことは否めないと思います。機械ではあっとやるぎ何とかなるくさんと。また補助金の来たんというような感じなところもなかったかなと思っておりますが、このまま行ったら、今、市長がおっしゃるように頑張りますが、ほんなて安倍さん、美しい国の日本てと。もう周辺部はすべて荒れてしまうばんたと私は言いたかですよ。

これだけ、やっこさ、辛うじて私の地区も、うちの坊主も含めてですが、20代、30代の後継者がぼつぼつ出てきました。本当に彼ら、若か芽ば伸ばさんばいかんのと。摘まんごとせんばいかんばんということで、我々も後押しをしておりますが、彼らに果たしてこれから先、百姓ばやっていけと言われるっかにゃと。最終的には、だれからも言われとらんけん、我がそれぞれ、うちの坊主も自分で我が仕事を選びました。かつて田崎秀俊とって、佐賀県の農協の中央会のトップを務められて、佐賀みどりの組合長でやめられた方がおられます。惜しまれつつ急逝をなされましたが、彼の言うことが　大先輩に彼とっては失礼ですが、我がせい、我がせいと言いよんしゃったです。私も信条はそうです。我がせい、我がせいと。人のせいにすんなよと。下手なゴルフばしてOBしようが、我がせいぞと。何でん我がせいぞとというようなことでやってきました。私も今まで若かもんと酒飲むときは、だれも我に百姓せろて頼んでばしおっかと、我がせいくしゃと言うてやってきましたが、これだけ制度がころころころころ変わってくっぎ、ほんなて我がせい、我がせいと言われんにゃというような気持ちで今おります。

市長も先頭に立って、現場の若かもんと会うときは、この前、山口良広議員が音頭をとって代表をしてくれて、認定農家の会ですね。あれにも市長駆けつけていただいて、皆さんとしっかりよか話ができましたが、そういう場でしっかり励まし 励ましというぎ当たるですね、激励と言わねばならぬですね。激励をしっかりしてください。あのときの雰囲気もほんなってよかったとですよ。そして、今度からは山口良広議員の骨折りで、山内も北方も一緒になった、いっちょの組織になりますよということが正式に決まりました。まだ山口会長、留任をさせていただいて、そういう組織をまた立ち上げて、そういうことをしますので、その節はぜひ、市長にも御案内が行くと思いますので、よろしくをお願いします。

さっきに続きますが、ことしの台風とか、これもほんなごて我がせいと思うとですよ。これについては、私は今まで行政にも言うたことなかですよ。台風で不作したものの、何とかせるて。これは言うのが筋違いやけん。やっぱり自然ば相手に我々は百姓ば選んだわけですから、これはもうどがんしゅうなかわけですよ、自然災害ですから。でも、今の気象、特に山崎議員の地元の橘地区のあの大水害ですね。常々、もう年に3回も4回もつかって、これは我がせいかにゃと。今度の常襲水害地対策特別委員会でも陳情に行つてまいりましたし、その前、武雄の国交省でも説明を受けましたが、鐘搗川にポンプが入ると。それから、市独自で、東の方にももういっちょつくと。これでちょっとしてみようかということで、これも市長が、異例なことだそうですね。途中でそういうことが、ポンプアップ施設がさらにつけられるというようなことは、年度計画外でできるというのは異例なことだと聞いております。市長のお骨折りだと思っております。

そこで、今までのごたあ雨の降り方じゃなかということは、これはもう市長も御案内のとおりで思います。ゲリラ的に、ばーんと降るけん、せいけん市長も要望書の中で、やっぱりそういう監視機構ですね、こればぜひお願いしたいと。上流部に降った雨が何ミリでということであると来ると思いますが、今、土木事務所、それから国交省で内水排水の施設がありますが、そこにセンサーのついとるですね。ここまで来んば上げられんとかいうことらしかです。これは農林水産省サイドでできたポンプアップじゃなかけん、やっぱり皆さんの交通に支障のなかとか、人身にあつたらいかんというようなことで、ある程度、農道ぐらいがぺちゃぺちゃとつからんぎんた上がらん位置にあるそうです。せいぎ、今やっぱり頑張つて頑張つて、もう米、麦じゃ食われんと言うて、園芸が結構増えてきたですね。しかも、ことしは4月に来たという状況の中で、チンゲン菜が全部冠水したとか、うちのあたりのイチゴが全部冠水したとか。で、一遍冠水したらでけんですよ。せいけん、生産者、彼らと話して聞きよるときに、もうちょっと早う、ここまで水の来る前、あと10センチ前、あと15センチ前に排水ばされんみゃあかと。そこんたいのシステムは今どがんなつとつとかなということですよ。これはもう事務レベルでも結構ですので、よろしくをお願いします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

排水関係を建設部の方で担当しておりますので、私の方からお答え申し上げたいと思います。

御指摘の件につきましても、建設部の方にも直接要望等がございましたので、県の方、それから国の方と、いろいろ相談に参りました。その結果、今のセンサーの位置というのが、いろいろ地元あたりとも協議をして決めたと。どういうことかということ、実は今のセンサーの位置よりも下げると、もう水害が出なくてもそこで反応してなると。そうすると、その分の費用負担、そういったものが非常に、かなり多くセンサーが感知をすると、その分費用が非常に高くなってくると。そういったことで、どうしますかということから、今のセンサーの高さに決まったということですので、そこのところを地元の方で解決いただくということも一つの条件になってまいりますというようなことです。なかなかそこところが皆さん方とまだ話ができずにおりまして、どういうふうに下げてくださいというふうな形になっておりませんが、今、御指摘のとおり、実際に災害に遭われた方もいらっしゃいますので、そこるところで話がついて、何とかそこところができればそれに越したとはないと思いますので、これからまた担当課の方でそういった協議をさせていただきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

やっとわかりました。一遍決めたけん、もう官の言うことが当たり前やけんがということじゃなかですね。ごっとい作動してまうけん、経費のかかるけんということですね。それはもう15年前にできた内水排水の施設ですから、わかるですが、さっきも山口議員の質問の中にあつたごと、時代は変わっていきよるけん、やっぱり今までなかつたハウスができたとかですね。そいけん、それもさっきから言う私の我がせい、我がせいかもしれんばつてん、ここんたいはつかるとわかつて来たろうだいと言われるぎそれまでばつてん、やっぱり田んかのなかぎ、そけ行かんばしょんなかですもんね。そして、今度は逆に、そがんとこは用水、自分が使う水にも便利かけん、やっぱりそこさん行かざるを得んやつたと。まさか、がんつかると思わんやつたと。そして、特にこの異常気象で、4月、5月にあがんふうということは今までなかつたですよ。6月の末から7月、そこんたいのときには大体我々も用心ばして、もうイチゴもやめとるわ、チンゲン菜もちょっとずらかそうかとかあるわけですが、4月、いきなりあがん来たということで、やっぱり膨大な被害ですよ。

米、麦、大豆については、そういう被害のあつた場合は農業共済という仕組みがあつて、我々も半分納めて、国が半分出してという仕組みがありますが、そういう仕組みがなかわけ

ですよ。今から、それはもう勉強課題ですからやっていくつもりではありますが、おれは一回決めたけんが、もう絶対見直すことは不可能という返事かなと思ったぎ、そがんじゃないかということになるぎ、じゃ、今度はケース・バイ・ケース、この地区はハウスのあるけん若干早目に上げてくれんかと。この地区はハウスもなかしと、そういう交渉はできるわけですかね。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

そういった交渉はできると思います。

〔17番「ありがとうございます。一回決めたけんが、絶対だめじゃ 済みません」〕

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

ついつい北方町の癖が抜けませんで、いつもうちの議長から怒られとりました、当時は。一回決めたけん、もう未来永劫だめじゃと。どこじゃいの政党のごとなってしまうけん、そいけん、やっぱりそんたいは臨機応変にやっていただきたいと思います。ありがとうございます。

それでは、最後に農業問題で、農地・水・環境保全向上対策、これについて今どのくらいの周知徹底がなされているのか、これも担当部長で結構ですので、説明をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

農地・水・環境保全向上対策事業でございますが、これは平成19年度から開始をされるということで、新しい制度ということになります。そういうことから、地域への説明を十分行う必要があるんじゃないかということで認識をいたしております。

そこで、現在まで市内の全区長さん、それから農業委員さんに対して事業の概要説明を終わっております。さらに、12月中に第2段階といたしまして、区長さんとか地域の関係者に対しまして、具体的な事業内容について説明をするということで予定をいたしているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

先ほどの19番議員の中にもありました地域の環境保全ですね。あれにもこれは使えるわけでしょう。（「はい」と呼ぶ者あり）これも国が5割、そして県が4分の1、そして地元の市町村が4分の1ということで、水田面積に4,400円の補助金というか、補助金じゃなからうばってん、維持費が来るわけでしょう。これの使い道ですよ、今から。武雄全体でこれに取り組む、中山間地があるけん、こっちの補助との絡みもあって、全市を網羅というようなことは不可能と思いますが、さっき言いました、山口議員の質問の中にも出ておった生コン代にも変えらるっとかなということです。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

農村の環境整備ということで、生コン代の方にも使えるということでございます。

議長（杉原豊喜君）

質問の途中ですが、議事の都合上、1時10分まで暫時休憩をいたします。

| | | |
|---|---|--------|
| 休 | 憩 | 12時1分 |
| 再 | 開 | 13時11分 |

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き午後の会議を開きます。

一般質問を続けます。17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

それでは、農地・水・環境保全向上対策、途中でございましたので、続けたいと思います。いきなり事務レベルに入りましたが、この趣旨ですね。もともとの趣旨は、要するに集落で農家が減ってしまう。今まで全体でやっていた水路とか、そういう保全ですよ。そういう対策に集落を上げてしなさいという目的で、この新たなる事業が始まるやに聞いておりますが、今までも、どこでもそうだと思うんですが、かまどに1人というですか、要するに1軒に1人、1年に1回は、自分たちの村の財産だから、農道なり水路は全部で管理してきた経緯があるわけですよ。そのほかに何かばせると、こういう事業だと解釈しております。

あと、何がそいぎあるのかなということで、現場関係にずっと今話をしておりますが、山口県によか例のあったということで、これは新聞で見たとですが、やっぱり地域ばきれいにしようかということで、女性群が柱になって環境づくりですね。地域の花、こういうことをしっかりやって、今モデル地区になった地区があるということで、来年度は委員長、そこに視察に行きたいと思っております。そういうすばらしい活動をした事例もございます。

それから、宮崎県の綾町ですね。あそこは照葉樹林と有機の里、そういうことで少量物で

単価が高くとれるということで、宮崎市内から二、三十分かかるそうですが、土、日に私たちも1回視察に行ったんですが、人出がすごかですよ、お客さんが。そこんたいのそこんたいのと言ったら失礼、ちょっと近所のばあちゃんたちが年収8,000千円とか、すごい話を二、三年前に聞いた経緯がございます。市長、そこんたいで、せっかくそこに持ってきてもろうとるですから、何か提案がありましたら、逆に提案をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

いろいろ私も考えました。これは皆さん御存じでしょうか。においの結構すつとですよ。これはレモングラスというんですね。レモングラスで、東南アジアの原産で、これは温暖化のおかげです。武雄でも、もうほとんどただ同然で肥料も要らんわけですね。しこたまとれます。これがちょうど温度が1度また下がるぎんた、なかなかできんとばってんが、そいけん、四、五年前は武雄でもこれはできんやっと思えます。しかし、今はどこかのレストランであたりとか、私の親戚のところでもこれを庭で植えて、もうどんどこんで生えよるですね。それで、これに目ばつけました。

一つは、このハーブティーです。これは、東京にホテルオークラであるですもんね。ここで、打ち合わせで昔行ったときに、これは同じ分量です。1,600円やっただす。これで、女性がこれば買い求めよんさあわけですよ。今、ハーブティーってあるとは全部ドライですもんね。1回乾かしたとばしとるけんが、はっきり言ってそがんおいしゅうなかとですね。しかし、生はやっぱりおいしかわけです。ナイスチャンスです。これをぜひ農業経営者の皆さんで、これは全然手間かからんとですね。もう種ばばんばかするだけでできます。したがって、あいているところにどんどんこればつくっていただいて、私は片一方で旅館組合とか、これからホテルに引き取ってくれんですかと。朝にそれを出すとか、あるいはこれをふるに入れるだけでもよかとですね、ふるにショウブ湯のごと。それだけでも香りのわあっと出るとですよ。そいけん、特に女性にはこれはよからしかです。冷え性の方とか、なかなかこれはよかと。

それと、これはタイから取り寄せました。タイに今行った日本人の旅行客が何ば買い求めよるか。これは、レモングラスのエキスば抽出したオイルらしかです。これは、レモングラスのにおいのぷーんとするです。これは原価6円です。しかし、日本で売るときは、びっくりしました、4千円です。買いんさあわけですね。

レモングラスをませ込んだ塩です。これは何に使うかというぎ、おふるにこれを入れるわけですね。これだけでも10回から20回ぐらいするぎんた、もう消えてなくなるです。しかし、これが2千円です、日本で買うぎ。塩とレモングラスと別々やるぎんた、多分10円せんですね。しかし、組み合わせることによって、これだけのことができるわけですね。

じゃ、これはタイだけかという話かと思います。しかし、こいば売りよところが、ついに大阪の阪急に進出するわけですね。きょうホームページを朝見て、もうびっくりしました。絶対ニーズのあるはずです。特に、レモングラスに限らんです。ハーブは、これから絶対受け入れられる素地が私はあると思います。それと、手間がかからんですもんね。それで、あんまり土の肥えとるぎんた、においのせんらしかとですよ。そういう意味で、ほんなごてあいとるところにつくっていただく。

一つ、ちょっと話はずれますけれども、クレソンです。あのサラダに使うですね。あれなんかも排水口でしよんさるところのあるですね。あの黒尾のレストランとかですね。中野かな、レストランとかですね。だから、そういう意味で、ほんなごてあいとるところでこれができる。設備投資もかからんと。こういったこともぜひしていただければ。

じゃ、こういう製品化ができるか。今できます。私がこれを中心になってさせてもらいましたけれども、ゆほほです。今、そういう技術ば持ったところというのは、中小企業でいっぱいあるですもんね。だから、温泉水と光触媒を結びつけて、日本で初めてゆほほというのはできたわけですね。だから、そういう意味で、技術は日本はやっぱりすごかです。だから、このレモングラスを安定供給できますということであれば、こういったのがもう現にできるわけです。タイができて、我々日本人ができんということは私はなかと思いません。

だから、そういう意味で、これから一つの方策としては、私は大豆をつくることも、米をつくることも、これは絶対大事だと思います。しかし、それ以外で、これは商売のネタになるばいと。これは絶対、女の人の気持ちばとらえるというば見つけて、それをどこよりも先んじてつくって商品化する、そこに私は武雄の農業の生き残りばかけたかわけです。先頭を切ってやりたいと思います。ちょっとにおいの強うなってきたけん、この辺にさせていただきたいと思えますけど、私の思いは、このにおいと同じように強いものがあります。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

どうもありがとうございました。私ももう来年は60になります。やっぱり今まで私がやってきた農業が当たり前という考えで、市長のような発想がなかなかできとらんやったということを、改めて思い知らされました。今の市長の答弁、説明、恐らく若い農家の人たちも見ると思えます。ありがとうございました。やっぱり発想ば変えんばいかんです。確かによくわかりました。ありがとうございました。今まで、米、麦、大豆、畜産、それだけという頭は切りかえてやっていきたいと思えます。

それから、言うておりました4,400円の件です。また現実に戻ります。これは、何か市町村の財政負担が義務づけられているわけですので、財政的に苦しいところ、これは半分まで

んよかばんたという話があるそうですが、本当でしょうか。これは松尾部長、聞きよらんやったやろう、今。

〔経済部長「いや、聞きよった」〕

これは地域裁量とかなんとかいう新しか言葉で、うちは4,400円出してくれるばってん、うちはきつかけんが半分ばんたと、2,200円しか出さんと。それでもまかり通りますよというような話をちよろっと聞きましたが、いかがですか。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

今回の農地・水・環境保全向上対策の件でございますが、今、原則として1反、10アールですね、4,400円ということでございます。それで、その財源の内訳といたしましては、国が2分の1、それから県が4分の1、市が4分の1という財政の負担ということになっております。

さっき議員おっしゃった、4,400円じゃなくて2,200円でもという話でございますが、それはその地域によって、その分については話ができるということでございます。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

これはあんまりだれでん知らんやった、私もきのうおとといこれば聞いたとですよ。ある行政はそがんすっぱいと。そいけん、そいのまかり通ってよかかなと。また、逆にこればつけ得んけんが、どっちがよかもんかですね。うちはきつかばってん、半分ならつけ得るという行政がよかのか、もうちは絶対出し得んけんゼロになすかと。武雄はどがんですか、4,400円で行ってもらえますか。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

農林課といたしましては、4,400円をお願いをしたいということで、財政の方にはお願いするようにいたしております。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

まだ3月議会も済んどらんし、そがんことは早まって言うべき質問じゃなかったかなと反

省しておりますが、県もまだはっきりしていない段階ですので、しかし、極力お願いをしたいと思っております。

それから、担当課の方でずっと集落を回って、区長さんなり、生産組合長さんなりに今説明がっております、先ほどあったように。話のちょっとかたかて。もっとかみ砕いて、さっきから言うたごと、セメントにも使われるっばいとかですね。それはもう確かに役人さんやけんが、ぴしっと言わんばいかんと思えますよ。幅はこのくらいあるばんたぐらいまで言わんぎ、してよかもんじゃい、せろて言いよるところっちやい、するなと言いよらすとこっちやい、判断に困るというような話も伝わってきております。今までがもう全然なかった制度ですので、どうせ3月議会、うちも据えて、それから県が果たしてどがんなるかわからんけんですね。県が6月の補正となったら、それ以降になると思えますので、まだ時間がございしますのでですね。ただ、手ば挙ぐっとは3月いっぱいには挙げんばいかんと思えますので、そがんでしょう、部長。そいけんが、それは手ば挙げたわ、部落内で話のまとまらんやった、うっかんげたじゃですね。そして、こればクリアして初めて来年からの2階建ての分を、反当9千円ですか、これにも行かるっという話ですので、まずこの1階建て、1年クリアするように、もうちかっとかみ砕いて説明をしていただきたいというのが要望です。いっちょ、よろしく願います。それから、もうそのとき聞きます、私も。部落で説明会があると思えますので。

次に移ります。道州制ということで通告をしております。

10年後に九州府を実現したいということで、九州市長会、もうとにかく目的ば持たんぎ、だらっとなってしまうけんということで、これはマスコミ、報道機関でばーんとなっております。10年後に道州となった場合、市長が一生懸命、うちは財政改革して、10年間はきつかばんたと言いよって、10年後に道州制と。道州制となったら、このままじゃいかんと思うですよね。恐らくまた広域合併が始まると思えます。恐らく鳥栖、佐賀、唐津、そしてこの武雄がその中心となって、大きな合併がまたあると思うわけですが、片一方で道州制で合併するばい、うちは一生懸命頑張ってきたばいと。それよりかも、うがった言い方ですが、10年後、合併するごたんない、ちかっとなつておこうかと言わんでもおかしゅうなかわけですから、市長の考え方をよろしく願います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も、10年後には道州制は達成されているというふうには実は思っています。実は私、道州制は夢物語と思うとったとですね。九州市長会でも決議があった。安倍総理も担当大臣ばつけて、3年後にめどばつけると。無理やろうもんと思うとったとですね。しかし、新型交付税です。新型交付税が、要件が面積と人口なんですね。面積と人口の、この2本立てになるわ

けですね。そいぎんた、これは合併せんぎんた話にならんわけですね。人口はなかなかふえんです。しかし、面積は合併をすることによってふえます。そうすれば、これは私、合併の一つの色仕掛けとしました。そういう意味で、新型交付税が議論の俎上にのって、この割合が高まることによって、私は次の合併が加速すると思います。

そのときに武雄の位置です。合併するけんが今のうちに使おうばんたて、それは一つの案と思います。しかし、そういったところが中軸に据えてもらえるでしょうか。今後の合併というとは、私は武雄が中心にならんばいかんと思うとですね、西部で。そのときには、ほかの周辺の市町が武雄と合併したかと。そいぎ、武雄の市民の人たちは、やっぱり武雄が中心になると一番喜びんさあと思うとですね。これがどこかの市になって、役場もそこに行かんばいかんとなるぎんた、それは私は武雄の市民に申しわけなかつたと思います。そういう意味で、武雄市が魅力を、あそこと合併したかばいというために私の仕事があると思っています。それと、それがすなわち武雄市民にとって、それが私はベストな選択だと思います。そういう意味で、10年後ば見据えて、スリム化しながら武雄の魅力を高めること、これが議会と我々に課せられた仕事だというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

わかりました。それなら、やっぱり我々も市長を信じて、我慢に我慢を重ねて、明るいあしたを見て、こらえていきたいと思いますが、やっぱりあそこといっちょは合併しゅうごとなかて言われるごた、そういうまちは私たちも望みません、もちろん。つらかろうばってん、苦しかろうばってん、我々は合併してきた、やってきた。そして、やっぱりあそこば中心に合併していくというまちになって、初めて結果が生まれると思います。現実には、これはちょっと聞いたうわさ話ですが、もうアタックのありよるかんだ。（発言する者あり）いや、ちょっと聞いたですよ。ある町とか、あちこちから、もう早目に武雄市と合併という、市長、答えられる範囲でよかです。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

アタックは結構あります。もうびっくりすることあるです。しかし、そのアタックも、ある町、ある市が武雄市と合併したかて、ある人が言いんさあぎ、しとうなかと言う人たちもおんさあわけですね。だから、正式な意思としてあるかないかは別にして、その割合から言うぎ、今の武雄とやぎ合併ばしてみたかという声が多かですね。しかし、私は本来的な合併論者じゃなかわけです。やっぱり私は首長として、今、武雄市政ば預かっておるばってんが、このくらいの規模がベストですね。やっぱり5万人から6万人というのが、こう目が届くわ

けですね。これが私、前、高槻におりました。35万都市です。そいぎ、市長の顔も知らんぎんた、市長は地域住民の区長の顔も知らんわけですよ。そういう意味で、適正規模からするぎんた、私は本来的に言えば、このくらいの規模から10万人くらいがよかかなというふうに思っていますけど、多分時代はそれば許さんと思います。さっきの交付税の話しかり。だから、好むに好まざる、そういう流れになっていくのかなというふうに率直に思っています。アタックはあります。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

議員の心理から言ったら、また選挙かと。いや、これは冗談ですが、そがん早うはなかと思ひます。今、市長がやっと軌道に乗られて、5万3,000人のまちづくりをしっかりと、せめてあと4年後ぐらいに合併というならわかるばってんが、また道半ばで選挙せんばならんかなという議員心理も働いておりますが、とにかく我々も市長を信じて後押ししますから、頑張っていたきたいと思ひます。

続いて、夕張の財政破綻、これはもういろんな方が出されました。大体これをあんまり言うぎ、そいけんうちはきつかるうがということで、市長から逆に逆提案がございまして、そいけん、何もかんもでけんとばい、しっかりといかんばならんという提案があると思ひまして、言うまいかなと思ひておりましたが、武雄市議会は稲富県議先生からぼろくそたたかれました。9月議会を見て、武雄は何かと。元気、本気、根気ということで、だれも財政のこと、5年後、10年後のことも言うたらんということで、それなら何とないと言わんとないということで質問を上げたわけですが、もう皆さん、ほとんどの方が出されました。きょうのニュースでも奄美大島ですか、あそこもインターネットで公表して、550億円かの赤字やけん、この財政再建団体、これは今の状態では自分たちが白旗ば上げんぎいかんわけでしょう。我々はどがんきつかっても自主再建ばする、自主再建で行くと言うぎ、それでよかわけでしょう。やっぱり行政が、首長が提案して、議会が賛成して、そして初めて財政再建団体ということに、今のところは手続はそうなっていると思ひます。今、総務省なりが言うてるのは、もうそれじゃいかんと。何でんばってんのまい、がたっとなつてからやぎどがんもされんけんが、早目に把握ばせんばならん、システムばつくりますということで、今の一般会計ばかりじゃなくて、第三セクターから、公営企業から、全部の借金ば集めて幾らというのを常に報告しなさいというような法案が、来年かことしの国会に通ると聞いております。前もって聞いてよかですか。うちは、この前、230億円ぐらいの起債残高ということで報告を受けておりますが、全部寄せるぎ幾らぐらいあるかんた、借金。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

本市における起債の残高ということで、通常は普通会計で25,968,700千円というようなことを言っておりますけれども、今議員おっしゃったように、農業集落排水事業特別会計、公共下水道特別会計、それから水道事業、工業用水道事業、病院事業等を加えますと、44,859,600千円という債務の残高でございます。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

市長、これは早う言わんばいかんもん。そいぎ、やっぱりだいでん、市長が言うことはほんごとてなるです。がんきつかばいと。うちは一般会計で200億円ぐらいの財政規模ですので、夕張の60億円規模で600億円、あそこは10倍ですよ。あれからするぎまだまだ、人と比べるけん、おれはまだよかということじゃなかばってん、448億円ぐらいの起債残高ということは、これはもう市民に公表してよかと思うんですよ、すべきだと思います。そしてなおかつ、10年間はきつかばんたというようなことを。でもあんまり言うごとなかもんにゃ、これ。あんまり言うぎ、そいけん小池議員、その予算をつけられんとですよと、こがんなっけんですね。

3年、4年ぐらい前ですか、夕張に行ったことがあるとですよ。すごかまちやなと思ったですよ、あれだけの施設のあったけん。今思えば、どこでもがらんとしとった。すごかったメロン場にしろ、何もなかった、人間もおらんやった。ただ、一番多かったとが「幸福の黄色いハンカチ」ですか、高倉健とか、あの名作。あれの跡地だけはそっくりそのまま残して、昔の旧炭鉱街ですね。そこはもちろんただです。そこは、とにかく観光バスの来ると多かったです。ただのところはお客さんのいっぱい来て、あれも今思えば、やっぱりやっていく、すごかなと思うたです。産炭地何とか法ということで、北方町も大分その恩恵を受けましたので、わかってはおったですが、やっぱり夕張というぎ、がん違うとやというようなことで来たところが、ここ二、三カ月前のこの破綻と、さもありませんというようなことを感じたわけです。

うちも、がばいばあちゃんのコーナーをシャッター通りにつくろうというようなこと、それは大賛成です。やっぱり1回見た映画、それから「幸福の黄色いハンカチ」もそのまま建ててあったですよ。そこにいっぱいお客さんで、写真を撮られていた風景を見ました。

それで、私、農協の役員もしておりますが、農協が今度、大型合併をしますが、その前に、6年前に1回合併しておりました。当時1,000人おった職員が、6年間で180人ぐらい減ったとです。自然淘汰と、それからいろいろあって、約2割程度の職員さんを切って 切って 切っていく、やめてもらってやった。それでもまだまだ人間は多かろうということで、次の段階の合併になっているわけですが、じゃ、武雄市の適正な職員の数ですね。今何名おられて、

今後、市長はどのくらいの、武雄市がどんどんどんどん発展するぞ、やっぱり職員もいっぱい要りますし、今のままであったら、ある程度のやっぱり、きょう山口議員おっしゃったように、首長も1人になったばいと。ずうっと3分の1になって、議員も半分ばかりになしたばいということで、あと市民の方が見ておられるのは、あと職員はどがんするとやと。人件費の削減しかなかろうもんという話も出てまいっておりますので、そこんたいの市長の考え方を聞かせてください。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

まず、私の方から職員数について。これは、せんだって議員にもお答えいたしましたけれども、普通会計ベースで現在409名の職員でございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は生首を切ったりとかというのは反対です。やっぱりよか環境で、私はよか仕事ができるというふうに思っています。ぬるま湯じゃなくて、前向きな仕事というのは、やっぱりいい環境で、きちんとしたいいい条件の中からしか生まれんと思っています。そういう意味で、私は今、時代的によかったのは、言い方は悪くなるかもしれませんが、団塊の世代の方々が今後大量に退職されていきます。そいぎ、数の話だけ言うぎんた、例えば、この年は10人の方がやめられると。採用ば5人にした場合は、自動的に5人の行革になるわけですね。人件費も、片や8,000千円、片や4,000千円というふうにして、その人数以上の効果が出ると思っています。そういう意味で、私は10年間かけて、これは軟着陸ばしていきたくというふうに思います。

その上で、本当にあとは職員の質の問題です。私は総務省におって、全国いろんなところば見させてもらいました。がん開きのあるですね。ほんなごて働きよんさあところは、物すごい働きよんさあです。働かんところは、何も働かんです。沖縄がそがんやったですね。がん差のあるとですよ。だから、武雄が今どういう状況かというのは、私もまだここに来て1年たっていません。私が武雄で感じたとは、物すごく仕事をする人とせん方と、差の恐ろしゅうあるなと思いました。これが例えば、私が前おった、私の経験談です。高槻市とか沖縄市とかといったら、大体公務員やけんがこういうふうになるわけですね、真ん中の方に。しかし、これはやる気掛ける能力が仕事力だと僕は思っていますけれども、武雄はちょっと開きがあるのかなと。だから、ここの方々が、やっぱりこういう前向きな仕事をしていこう、武雄を住みやすい都市にしていこうと言ったら、私は武雄はすさまじい力になるというふうに思っています。そういう意味では、私は職員の皆さんたちに期待していますし、質と量の

関係では、私はそういうふうを考えております。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

私も職員の生首、これはもう絶対反対します。今、市長がおっしゃったように、10人やめたら5人採用ですよ、5人やめたら3人採用ですよという答えに、あんまりすばっとやめたら、中が空洞化してしまうけんですね。やっぱりよか人材は育たんと思いますので、財政改革に向かって邁進をしていただきたいと思います。

終わります。